



人物紹介

結華・・・K大学の生徒（普通の女の子）

美夏・・・K大学の生徒（大学で有名な女の子）

大貴・・・結華の彼氏

隼人・・・美夏の彼氏

広子・・・結華の友達

里美・・・美夏の友達

ABAちゃん・・・結華の相談相手（女っぽい男の子）

瑠香・・・美夏の相談相手（男っぽい女の子）

これからどんなことが起きるのだろうか・・・？

出会い

ある日、K大学に通う結華がいました。
朝結華は前を歩いていた女の子が何か落としました。
すかさず、結華はその女の子を追いかけて
「すみませーん。落としましたよー！！」
「あー——！ありがとうございます！」
それが二人の出会いでした……。



再会

1週間後、結華は授業を受けるためKホールに行きました。

すると「あれっっ?!この間の・・・?」

と話しかけられました。振り返ると、あの女の子が隣に座ってたのです。

結華は「わ～偶然ですね!!」

「この間はありがとうございました。」

「いえいえ!」

「あっ!友達になってください!私は美夏といいます。美夏って呼んでね。」

「こちらこそ!結華って呼んでね。」

二人は友達となりました。



結華の気持ち

結華は美夏と出会ってからなぜかドキドキしていました。

「なんでドキドキするんだろう・・・。」

今まで結華も普通の女の子でいろんな恋愛をしてきました。

今もちゃんと1年付き合っている彼氏がいます。

特に喧嘩とがなく、記念日は毎回お祝いして順調でした。

けれど、結華は美夏と出会って普通の友達という感覚とは違うと思っていました。

「まさか・・・ね！私には大貴がいるし、違う違う！！」

「でも・・・気になるんだよなああああ」



美夏の気持ち

美夏は学校でも有名な女の子でした。

美夏にも彼氏の隼人がいました。

二人は学校でも有名な美男美女のカップルで、誰もがうらやましがりました。

美夏も結華に出会ってから何か心の中が揺れ動いた気がしました。

「隼人とも明日で2年記念日か……。嬉しいんだけどなんだろう……。この気持ち。」

「でも……。こんなの私じゃない！！」

心の中で言い聞かせているが結華のことをいつも考えていた。



大貴の気持ち

「結華とは1年たったんだなあ！」

特に大貴はほかの女の子には興味はなく、結華一筋でした。

「結華は、俺にとって必要な存在だし、いずれは結婚とか・・・なあんてな！！照
妄想してる俺は馬鹿か！！笑」

いつでもラブラブだし、問題ない！！と思っている。



隼人の気持ち

最近隼人は、物足りなさをずっと感じていました。

「美夏は可愛くて全然俺にはもったいないくらいなのになんでだろう...もう2年たつんだあ。最近あの子が気になってしょうがないんだよな。俺最悪だな...。」

隼人は、違う女の子を気になり始めてしまい、自分を責め始めました。



結華と広子

「おはよう！！広子！！」

「おはよう！！結華！！」

二人は中学から一緒ですごく気が合って仲がよかった。

「昨日さあ～大貴とデートでカラオケ行ったんだけど、めっちゃ歌うまくてやばかったあ□」

「そっそうなんだあ…。いいね□ラブラブじゃーん！！」

「うっうん！いいでしょ！」

結華は表ではラブラブを見せつけているけれど、実際心の中では複雑だった。

一方、広子は結華とすごく気が合う分好きになる人も似ていて、結華と大貴が付き合う前から大貴のことが好きで、正直二人が付き合っても気になっている。



美夏と里美

「おはよう！里美！！」

「おはよう！美夏～！！」

二人は大学から友達になってとても気が合っていて仲がいい。

「今日で隼人と2年記念日なんだよね！！」

「え～！！長いね！！おめでとう□」

「ありがとう。」

美夏はおめでとうと言われても前よりもはるかあまり心から喜ばなく、嬉しくなくて、変な気がした。

里美は心から美夏は彼氏に一途ですごいなあと思っていた。



ABAちゃんの存在

結華とABAちゃんとの出会いは、大学からでした。

同じ授業が重なることが多くて、次第にお互いの話の相談相手となった。

ABAちゃんは、男の子だが女の子の心を持っていて、

結華は特に相談しやすい相手だった。

「実はさ...大貴とうまくいっていないわじゃないんだけど、最近できた友達的美夏という子がいて、その子と出会ってからなんか私変なの！！なんて言ったらいいか...う～ん。会話したり会ったりしたらドキドキするんだよね。大貴のことを嫌いになったわけじゃないんだけどさ...。

」

「それってドキドキするってことはさ、その子のこと好きなんじゃないのかな？」

「えええ～！」

「自分の気持ちに素直になったほうがいいと思うよ。うちも実際男だけど、女っぽいし男の人のこと好きだからさ！！恥ずかしがることはないよ！」

「私...こんなこと初めてだからわからなかったけど、そうなのかな...このまま大貴と付き合っても

意味ないと思うから明日気持ち伝えてくる。」

「うん。頑張るってね！うちは結華の味方だから！」



瑠香の存在

美夏と瑠香は高校時代からの友人で仲が良かった。

美夏は大学で可愛いと有名だが、瑠香は女の子だけれど男っぽいのでかっこいいと女の子からも結構人気があった。

いろいろ恋愛のこととかお互い相談相手でもあった。

「今までだったら隼人との記念日でおめでとうって言われたらすごく嬉しかったのに、全然嬉しくなかったんだ。

最近友達になった結華って子がいるんだけど、私どうかしてるって思われてもしかたがないんだけど、その子が

気になって気になってしょうがないんだよね。」

「あたしもあるよ。そういう経験。だからわかる。それは好きっていうんだよ。

まああたしは男っぽいからそういうこともあるって周りから思われるけど、美夏は女の子だからな。

だから、素直な気持ちを隼人に伝えるべきだと思うよ！」

「そうだよ...私、隼人と付き合えて幸せだったけど、最近はなんか違ったんだ。

ちゃんと言ってみる。ありがとう」

「がんばれよ！」



関係

話がごちゃごちゃになってしまったため、
わかりやすく関係図にまとめてみた。



結華のカミングアウト

結華は大貴を呼び出し、話を始めた。

「今日呼んだのは、これからのことなんだけど...」

「えっ？なにになに？結婚するとか～？俺から言いたかったのに一笑」

「違うの。ごめんね。あたし好きな人が出来たの。しかも女の子...」

「はっ？！何言ってんの？俺ら順調だったし、ずっと一緒って言ってたじゃん。」

「ごめんなさい。だから別れよう」

「なにそれ。相手は知ってんのかよ？」

「これから言うつもり...」

「もうどうこういっても気持ちは固まってんだな？」

「うん」

「なら俺は手をひくよ...」

「今までありがとう。本当に幸せだった。そしてごめんなさい...」

結華は何度も大貴に謝って、大貴の見たことのない涙を流していた。



美夏のカミングアウト

今日美夏は隼人とデートの日だったため、ファミレス集合にした。

「遅くなってごめんな～美夏。」

「大丈夫だよ！」

「で、話ってなんだ？美夏がファミレスとか珍しいな。」

「うん…。あのね、実は私気になる人ができたの…」

「実は俺もなんだ…」

「えっ…。そうだったの？知らなかった…」

「本当にごめん。その気になる子は美夏の友達の里美ちゃんなんだ。」

「そっそうなんだ。」

「美夏は…？」

「私は、引かれると思うんだけど最近友達になった結華ちゃん。」

「あっえっ？女の子のことを好きになったの？」

「私もよくわからないんだけど、そうなの…」

「そっか…お互いのためにここで別れたほうがいいよね。」

「うん。そうだね。本当に2年間幸せだった。ありがとう」

「こちらこそ、すごく楽しい時間をありがとう。そしてごめんね…」

結局お互い気になる人が出来たという形で別れることになった。



心の癒し

大貴が結華と別れて病んでいるということを知った広子は、大貴の所に行きました。

「大貴...？大丈夫？」

「おう。」

広子が大貴に近づきぎゅっとしました。

「おっおい！なにしてんだよ...。」

「少しこのままでいたら、楽になるよ。今すぐ忘れななんて言われても無理なのはわかるから...なんでも話聞かし、相談のるから何でも言ってね。」

「ありがとな」

広子は、チャンスだと思い大貴が弱っているすきを狙って、距離を縮めようとし始めた。



隼人の告白

さすがに有名カップルが別れたことは大学中に広まっていた。

その中、隼人は気持ちを伝えようと、里美を呼び出した。

「里美ちゃん。」

「隼人くん。聞いたよ…。美夏となんで別れちゃったの？すごくお似合いで私、二人を尊敬してたのに…」

「そうだったんだ…。応援してくれててありがとう。そして、ごめんね」

「謝らないでよお。責めたいわけじゃないんだから。」

「それでさ…お互いに好きな人が出来たから別れたんだ。」

「えっ??美夏も？」

「うん。美夏は…びっくりすると思うけど結華ちゃんのことを好きになったんだ。」

「結華ちゃんって…女の子だよね…？」

「そうだよ…。」

「じゃ隼人くんの相手は誰なの？」

「里美ちゃんなんだ…」

「えっ?里美って私??」

「そう。ずっと前から気になってて、でも美夏には本当に悪いことすると思って言わないままでいようと思ってたらこんなことになったから…。やっと気持ち伝えられた。」

「で、でも美夏に悪い。隼人くんのこと嫌いじゃないけど、友達を裏切れない。」

「返事はずっと待ってるから。よく考えてください。」

二人は、曖昧なままその場を後にした。



話し合い～里美～

里美は、美夏に告白されたことを言いました。

「美夏...ごめんね。私隼人くんに告白されたの。」

「知ってる。それでどうしたの？」

「私、嫌いじゃないけど友達を裏切れないって言った。」

「里美...。私も好きな人ができたの。」

「話...隼人くんから聞いた。」

「そっか...里美、自分の気持ちに素直になって私に隼人に対する気持ち言ってみな。」

「ううん...実は気にはなっていました。」

「好きってことだよな？」

「たぶん...ううん。ごめんなさい。」

「謝ることじゃないよ！その気持ちをちゃんと隼人に伝えてきな！！」

私のことは気にしないで、私も頑張るからさ！！」

「みかあああ...涙 ありがとう！！これからもずっと友達だよおおお涙 」

そう言って二人はより一層仲が深まり、お互い気持ちを伝えることになった。



告白～里美～

「隼人くん！！」

「里美ちゃん！そんな急いでどうしたの？」

「好き□」

「えっ？えええええ～」

「隼人くんのが好きです！」

「本当に？！付き合ってくれるの？」

「本当です。よろしくお願いします。」

「やったー！！嬉しすぎる 涙」

「これからよろしくね□」

「でも...本当に急にどうしたの？」

「私美夏に全部話したの。そしたら素直になりな。って言われて、だから...」

「そうなんだ...美夏自身はこれから大変だと思うけど、俺から言うのも悪いけど、
里美ちゃん！美夏とずっと友達でいてあげてね。」

「もちろん！！」

二人は無事結ばれることになった。



話し合い～広子～

「結華...話があるんよ」

「改まってどうしたの？」

「実は、ずっと大貴のことが好きだったん」

「えっそうだったの...？気づいてあげられなくてごめんね...」

「結華のせじゃない。あたしと結華は中学から一緒に何度か好きな人かぶってたの...。でも、言えなくていつも...本当に気が合いすぎなんだもん！！あたしと結華は！笑」

「本当にごめんね...。私さ今好きな人がいるの。」

「誰なの...？」

「美夏...。」

「女の子のあの美夏ちゃん？」

「そう。おかしいでしょ？引かれてもしょうがないって思ってるから...」

「ううん。引かないよ！例え女の子を好きになっても、好きっていう気持ちは誰も抑えらんないからさ。」

「ありがとう。だからあたしも頑張るから、広子も頑張ってよね！！」

「うん。結華...？何でも話聞くからね？」

「ありがとう」

お互いの気持ちを話してあって、頑張ることを決めた。



告白～結華と美夏～

やっと二人は決断し、お互いの気持ちをぶつけようと会うことになった。

「美夏！！話があるんだけど...」

「あっあたしも話がある！！」

「あのね、私大貴と別れたの...。」

「私も隼人と別れた...。」

「えっ?!何かあったの?」

「お互い気になる人が出来たからさ...」

「そっそうなんだ...。」

「隼人は今里美と付き合ってるよ！！」

「里美ちゃんって美夏の友達だよな?」

「うん!でもちゃんと話し合っ、お互い素直に気持ちを伝えようってことになったの!」

「そっか。私の友達の広子も大貴のことが好きって私にいつてきてさ!」

「なんか...似たようなことが近くでおきすぎだよな～」

「ところで本題!!美夏の気になる人って誰～?」

「えっ...。実は私ね...真剣なんだけど結華のことが気になるの!」

「ええええ!!!」

「そうなるよね...。本当にごめんね。なんか変なこと言って...」

「違う!違う!わっわたしも美夏のことが好きなの!!!!」

「どどどどうしよう!」

「まさかの展開だよおおお」

「これからどうする??」

「ずっと一緒にいよう」

「うん。いろいろあると思うけどよろしくね!」

お互いの気持ちを打ち明けられて、お互いの気持ちが通じ合っ、初めての恋愛をした。



5年後...

結華と美夏は大学を卒業して、それぞれ就職をした。
そしてルームシェアという形で一緒に住んでいる。
付き合っているというより、お互いが一緒に居られれば幸せと感じ
日々楽しく過ごしている。
結局広子は、大貴に気持ちを伝えられず、大貴には新しい彼女ができた。
隼人と里美は、卒業後も順調に付き合っていた。
夏には、赤ちゃんが産まれることになり、結婚式をあげることになった。
二人は、今まで関わってきたみんなを呼ぼうと決めた。
再び再会することになる。

また何かしら起きちゃうかも...？笑

これはフィクションです。

